

月別概況（令和3年）水産

1月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 762 円

一般近海及び小釣物では、グレが入荷安定で保合。アジ類は水揚げ少なく保合。平目が水揚げ多く安値。長ハゲも水揚げ多く安値。トラフグが水揚げ少ないが安値。釣り物だけ相場保合。青物では、サバは県外からの入荷安定し、値は保合。アジは、県南からの入荷安定し、こちらも保合。養殖ものでは、カンパチは瀬戸内の在池なし浜値、安値安定。ハマチ、ブリが昨年比べて在池多く、浜値、安値安定しており、売りが悪くなっている。太物では、本よこは、日本海側で6k～、高知で2～3kが主体。高知で水揚げが多い日が続き安値になる。浜値380～550円。びんよこ、かつおは水揚げ少なく高値安定。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 837 円

カニ類は「新型コロナウイルス」の感染再拡大を受けて、外食、ホテル、観光への需要が減少して低迷し、小売りや量販店で需要があり、このままカニの相場も引き続き堅調に推移すると予想。

加工水産物 427 円

1kg 当たりの平均単価

ちりめんの漁は淡路と徳島の南で少し取れて、値は安い。

2月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 750 円

一般近海及び小釣物では、グレ、入荷安定。先月より上相場。平目、水揚げ多く下相場。トラフグ、前月より上相場。タコ、安定保合。メイタ・オコゼ、水揚げ増えるが、ヤセ多く安値が続く。青物では、サバ、千葉・三重など関東からの入荷安定。値は保合。アジ、県南・高知からの入荷安定。こちらは、先月と比べもちなおした。スルメイカ、日本海からの入荷が時々あるが、4000～3500と保合。イワシ、関東から入荷安定し、こちらも保合。養殖ものでは、カンパチ・ハマチ・ブリ、共に補助金制度の為、売れ行き上々。ハマチ・ブリの在池、昨年より減少傾向。浜値は、共に安定。太物では、本よこ、日本海側では6k～が主体。下旬には水揚げが増え、暴落する。K700～800。高知県産は、漁獲量規制により、月初めの2、3日で終わる。びんよこ、宮崎・鹿児島が主体で安値安定。かつお、和歌山と県南が主体で高値安定。2kで800～1100。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 819 円

高値が続いていたボイルホタテが新物の入荷により、値下げの傾向。ほたて貝柱は、5 S、4 S などの小型サイズの値は、やや下げ相場。2 S サイズ以上の大型サイズは、数量少なく上相場。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 241 円

ちりめんは、県南と高知で少し取れている。

いかなごは、後半に少し取れ、値も高い。

3月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 774 円

一般近海及び小釣物では、赤舌・ガンゾウは、入荷多く安値。アオリは、少なく高値保合。ハマチ類は、ヤセが多く安値。メバルは、少しづつ相場上がる。平目は、入荷多く安値。油目・マコカレイは、相場が急に上がる。青物では、サバは、三重・千葉など中部から入荷安定。値は保合。イワシは、前回に続き千葉からの入荷安定。こちらも保合。月の中頃から太平洋の大敷にかかるブリが多くなった。初めは高値だったがすぐに下落。養殖ものでは、カンパチ・ハマチ・ブリは、補助金制度で売り上げが上々。ハマチ・ブリは、在地が少なく、浜値が上がり気味。太物では、本よこは、高知県産で2～3 Kのものが主体。K 900～1200。中旬以降は、漁獲枠規制により入荷が難しくなる。びんよこは、高知県産と和歌山県産が主体。浜値が高く、売りがついてこない。かつおは、高知で豊漁。暴落した日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 837 円

モーリタニア及び、アフリカのタコの漁獲の減少により、昨年より1500～2000ドル高い。また、ヨーロッパの小型タコの買占めにより、日本国内に、アフリカタコの在庫が大幅に枯渇しており、今年は厳しい。日本では、北海タコや各県の地タコが主体になるだろう。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 248 円

ちりめんは、高知県と宮崎県で取れて値は少し安い。いかなごは、淡路で少し取れ、岡山県と香川県で少し漁があった。

4月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 727 円

一般近海及び小釣物では、サワラ・オコゼ・メイタ・平目は入荷が多く安値。メバル・ガシラ・ハマチ類は保合。全体的にコロナの影響で安値が続く。青物では、サバは県内外からの入荷安定。値は保合。アジは、小アジが県南から入荷安定。こちらも保合。県南や高知沿岸の大方要網のブリは、4月初めは値が良かったが、後半になるにつれ徐々に下落。サワラは、県内県外どちらも水揚げが多く安値となった。養殖ものでは、カンパチは在池、昨年並み。売り、堅調。ハマチ・ブリ類は在池、少なめ。売り、低調。太物では、本よこは高知県産で3K~15Kのものが主体だが水揚げが少なく入荷が不安定。びんよこは高知県産が主体。浜値・売値共に安値安定。かつおは高知県で水揚げが多く暴落した日々が続く。月末にかけて関東までが強くなり浜値が上がり売場がついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 599 円

バナメイ・ブラックタイガー・赤エビなど量販店向けの商材が国内品薄の為、相場強含みで推移しており、値上げ傾向ではあるが、春需要もあり、荷動きは良かった。

加工水産物 363 円

1kg 当たりの平均単価

ちりめんの漁は、昨年より多く値は安い。汐わかめとめかぶは、昨年より少なく値は少し高い。

5月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 705 円

一般近海及び小釣物では、鱧は水揚げが前年より多いが、上りが多く安値。平目は前月より少し相場が上がるが前年より安い。オコゼは水揚げが多く安値。全体的に安値が続く。青物では、サバが県内外からの入荷安定。値は日によりまちまち。アジは瀬戸内・県南からの入荷安定。値は高値。サワラの水揚げがなくなり月の後半から徐々に上昇傾向であった。イワシ類は千葉県からの入荷安定。値は保合。養殖ものでは、カンパチは安値安定。ハマチ・ブリ類は高値安定。売り堅調。太物では、よこは全国的に水揚げが少なく入荷が不安定。びんよこは高知県が主体。水揚げが多く安値安定。かつおは全国で水揚げが多い。高知県でも前年比3~4倍の水揚げがあり、浜値・売値共に暴落した日が続く。浜値100円前後売値200円前後(2K~1.7K)

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 679 円

コロナ相場も一巡し、日本国内の消費量とは比例せず価格の正常化に向け、昨年比国産 2 割UP。中国 3 割UPで推移している。売値づくりも国産うなぎのタイトさから、中国主体で動き出している。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 251 円

ちりめん漁は全国的に昨年より少ない。汐わかめも昨年に比べて少なく高値。

6月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 691 円

近海及び小釣物では鱧組合出荷が多く入荷少なく水揚げも前年より少ない、カレイ相場高値オコゼやせぼて多く安値続く。太刀魚水揚げ多く下げ相場。青物ではサバ県外特に日本海からの入荷安定保合。アジ類入荷少なくなり値上った。イワシ系島根、鳥取からの入荷安定保合。養殖物ではカンパチ安値安定ハマチ、ブリ類高値安定売り堅調早い地域では新 2 年生の出荷始まる。太物ではヨコ青森 4.5 K が主体全国的に水揚げ少なく入荷が不安定。ビン高知県で水揚げ多く暴落した日が続く。カツオ先月に続き高知県で水揚げ多く浜値売値共に暴落した日が続く。浜値 100 円前後売値 150 - 250 円。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 877 円

銀サケ、紅サケの原料価格が高騰し売れ行きが低迷している。タコ原料は、アフリカ原料の不漁で国産タコの価格が高騰している。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 358 円

ちりめん漁は少なく、値は少し上がってきている。香川の煮干は、少なく値は高い。

7月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 794 円

一般近海及び小釣物では平目、マコカレイ相場上がり高値保合。スズキ高値保合。サワラ、太刀魚多く安値。鱧中頃まで保合後半水揚げ多く安値。青物ではサバ県南県外からの入荷安定保合。アジ系豆アジ小アジの入荷が多く値は徐々に下落。イワシ千葉からの入荷安定

保合。養殖物ではカンパチ在池昨年並売り堅調、ハマチ、ブリ類在池昨年より3～4割減
浜値急騰のため売り悪し。太物ではヨコ青森5Kから10Kが主体で安値安定K800
～1000円。ビン高知、和歌山が主体入荷が不安定、浜値が高く売りがついてこない。
カツオ相変わらず全国で水揚げ多く安値安定K200～350円。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 897 円

貝柱、ボイルホタテ輸出好調により高値4Sサイズまでの小型サイズの生産量が少なく
高値保合。中国産のアサリ、ハマグリ等の貝類は、中国内の消費が大きく入荷減少のため、
高値売り低調傾向。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 705 円

前半は、ちりめんの漁は少なかった。後半から漁が増え昨年より多く値は安い。

8月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 840 円

一般近海及び小釣物では平目、高値安定、マコカレイ、メイタカレイ少なく高値保合。鱧
水揚げ多く安値、スズキ高値保合。タコ入荷安定保合。アジ県南からの小アジ入荷安定、
値は下落。8月終わりからサンマの入荷が始まり値は浜値に比べかなり安い。イワシ千葉、
日本海からの入荷安定保合。養殖物ではカンパチ売り堅調。ハマチ、ブリ類浜値高値売り
弱い。太物ではヨコ青森5～6Kが主体で安値安定、K1000円前後。ビン高知が主体
で水揚げ多く安値K500円前後。カツオ高知主体で全国気にも水揚げ多く安値安定、K
200～350円。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 824 円

アフリカの真タコの価格が予想通り上がり続けており8月の時点で原料K1700円以
上となっており国内在庫も品薄状態。国産の地タコもそれに伴い価格上昇しているもの
の緩やかである。ベトナム中国の岩タコも価格上昇しており年末までさらに上がる予定。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 652 円

昨年より和田島のちりめん漁は多く、値は昨年より安い。

9月

生鮮水産物 776 円

1kg 当たりの平均単価

一般近海及び小釣では、太刀魚水揚げ多く安値、鱧入荷安定安値、活平目水揚げ少なく高値、タコ後半水揚げ少なく相場上がる。メイタ、カレイ類水揚げ少なく高値。青物では、サバ県南、九州からの入荷安定保合。アジは、マルアジが九州からの入荷多いが安値安定保合。サンマの入荷が増え初め高値だったがすぐに下落。イワシは日本海からの入荷安定保合。養殖物ではカンパチ売り堅調浜値上昇傾向、ブリ、ハマチ高値継続。太物では、ヨコ宮城、長崎主体で水揚げ不安定で高値ビン高知主体で水揚げ多く安値。カツオ、高知主体で水揚げ少し減ってきて浜値上がる、場内は、宮城気仙沼の需要が高くなる。高知K 350-400円、宮城K 700-800円。

冷凍水産物 863 円

1kg 当たりの平均単価

コロナの影響により東南アジア主要産地がロックダウンして殻付きえび、加工品共に国内欠品に近い状況になっており相場上昇中。

加工水産物 615 円

1kg 当たりの平均単価

ちりめん漁は、全国的に取れ値は昨年より安い。サンマの漁は昨年より少なく値は高い。

10月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 792 円

一般近海及び小釣では、丸ハゲ水揚げ少なく高値、長ハゲ水揚げ多く安値、カマス多く安値、タコ入荷少なく高値、ポーゼ小、小小が水揚げ多く安値、鱧水揚げ少なく高値。青物ではサバ県外特に北海道からの入荷安定値は高値キープ、丸アジ九州から、平アジ和歌山から入荷安定保合。小アジ県内外からの入荷安定安値傾向。サンマ入荷安定安値傾向。養殖物では、カンパチ浜値上昇傾向売り堅調、ブリ・ハマチ高値継続売り低調。太物では、ヨコ宮城が主体、水揚げ少なく高値安定、ビン鹿児島主体4K~の水揚げが多く、需要の多い3K以下サイズは高値、カツオ宮城、高知主体、宮城の需要が多く高値安定、高知は安値で売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 830 円

中国現地側の加工原料価格の高騰から相場が上昇しているが、日本国内では相場が上がり
らず。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 591 円

ちりめん漁は少し少なくなり、品物もよく、値も先月より高い。数の子は少なく昨年より
高い。

1 1 月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 699 円

一般近海及び小釣では、タコ入荷少なく高値保合、アオリイカ水揚げ少なく高値、長ハゲ
水揚げ多く安値、丸ハゲ少なく高値、カマス多く安値、平目保合、平アジ少なく高値。青
物ではサバ北海道からの入荷安定高値保合、アジ和歌山、高知等、太平洋側からの入荷安
定で入荷量多く安値、イワシ北海道からの入荷安定するが浜値には遠く安値でキープ。養
殖物では、カンパチ浜値高値売り堅調、ハマチ、ブリ浜値高値継続売り低調。太物では、
ヨコ長崎、島根が主体、巻き網が始まり水揚げ多く安値の日が続く和歌山、三重で小ヨコ
が上がり始める、ビン鹿兒島主体安値安定、カツヲ宮城、高知が主体で中旬以降は高知だ
けになり浜値が上がり売値がついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 907 円

コロナにより中国の工場が停止、それにより赤魚、タラ、サバ等の凍魚で高値、欠品する
メーカーも多く無い物相場が旧正明けまで続くと思われる。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 504 円

ちりめんの漁は少し減り、値は安い。数の子は漁が少なく値は高い。

1 2 月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 998 円

一般近海及び小釣では、長ハゲ水揚げ多く安値、丸ハゲ水揚げ少なく高値、平目水揚げ多
く保合、グレ水揚げ多く安値続く、トラフグ、クエ等高級魚水揚げ少ないが動き悪く前年
より安値。青物ではサバ九州、韓国からの入荷安定強保合、アジ県南高知からの入荷安定、
値は保合、イワシ北海道からの入荷安定、値はまちまち。養殖物では、カンパチ、ハマチ、

ブリ高値継続、売値堅調。太物では、ヨコ徳島、長崎が主体、2～5キロ前後の水揚げが多く安値安定、ビン是全国的に水揚げ少なくキハダも少ない影響で高値、カツヲ高知主体、水揚げ少なく浜値は高値安定、売りはついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 993 円

国産、海外共にタコの値上げは続いており、令和4年1月から2月の新物価格はさらに高くなる予想。特に北海タコの次扱い不足により急激な価格上昇があると思われる。

加工水産物 588 円

1kg 当たりの平均単価

全国的にちりめん漁は少なく値は安い。数の子、鮭は漁が少なく値は高い。